

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 貿易統計(2007年12月)

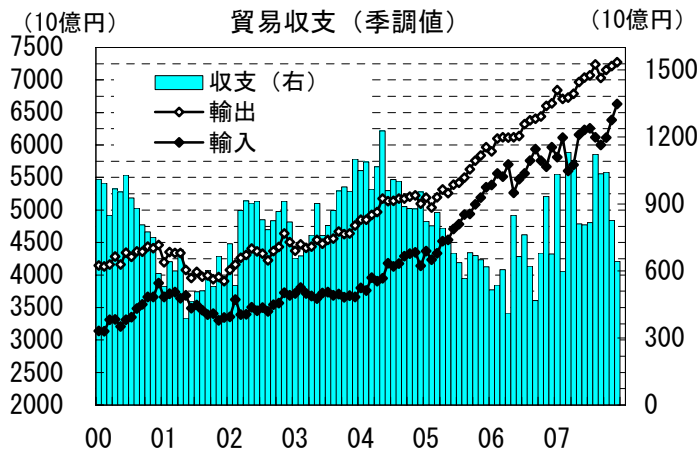
発表日2008年1月24日(木)

～原油価格高騰を背景に2ヶ月連続の貿易黒字縮小～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 柵山 順子

TEL : 03-5221-4548



(10億円)	季調値			原数値
	貿易収支	輸 出	輸 入	貿易収支
06年12月	677	6643	5966	1110
07年1月	1034	6845	5812	-3
2月	599	6710	6112	975
3月	1131	6732	5602	1628
4月	1096	6791	5695	921
5月	810	6970	6159	383
6月	807	7038	6232	1220
7月	816	7073	6257	661
8月	1123	7240	6117	734
9月	1034	7033	5999	1634
10月	1041	7156	6115	1002
11月	827	7212	6384	792
12月	642	7275	6632	878

(出所: 貿易統計・財務省)

(前年比、%)

	輸出金額	輸出価格	輸出数量指数				輸入金額	輸入価格	輸入数量指数			
			全体	対米	対EU	対アジア			全体	対米	対EU	対アジア
06年12月	9.8	5.3	4.2	6.7	▲ 2.6	8.4	7.8	3.2	4.4	▲ 10.6	8.7	7.2
07年1月	19.0	9.4	8.8	0.7	▲ 4.8	23.0	10.3	10.4	▲ 0.1	15.8	0.5	0.2
2月	9.7	11.1	▲ 1.3	1.7	▲ 0.4	2.5	10.2	2.2	7.9	3.8	4.3	16.5
3月	10.3	9.6	0.6	▲ 4.2	▲ 3.7	7.4	0.2	7.3	▲ 6.7	8.8	0.6	▲ 13.0
4月	8.2	7.8	0.4	▲ 13.1	6.6	7.0	3.5	10.3	▲ 6.1	21.2	▲ 0.5	▲ 4.7
5月	15.1	8.4	6.2	▲ 13.2	8.8	12.1	15.6	14.5	0.9	12.5	8.8	2.2
6月	16.2	9.7	5.9	▲ 8.3	7.8	13.4	10.8	17.3	▲ 5.5	▲ 4.4	5.0	▲ 5.2
7月	11.8	9.0	2.5	▲ 10.4	2.6	10.6	17.1	17.1	▲ 0.0	6.1	15.1	1.3
8月	14.5	5.8	8.2	▲ 5.2	4.6	13.1	5.8	12.0	▲ 5.6	▲ 10.7	▲ 0.3	▲ 5.1
9月	6.5	▲ 0.0	6.5	▲ 11.9	9.7	7.5	▲ 3.2	6.3	▲ 8.9	▲ 7.7	0.4	▲ 11.0
10月	13.8	▲ 0.8	14.7	▲ 3.2	21.5	14.6	8.7	11.4	▲ 2.4	8.1	7.1	▲ 1.9
11月	9.6	▲ 1.6	11.4	▲ 5.8	6.1	14.9	13.2	13.6	▲ 0.3	1.2	7.0	▲ 0.6
12月	6.9	▲ 1.4	8.3	▲ 13.4	4.4	11.8	12.1	16.4	▲ 3.7	14.6	▲ 5.6	▲ 2.5

○12月の貿易黒字額は2ヶ月連続で減少

12月の貿易収支は8,779億円(原数値)、前年比▲20.9%と2ヶ月連続で黒字幅が減少した。輸出金額をみると、前年比+6.9%(前月同+9.6%)と伸びが鈍化している。アメリカ向けが引き続き減少したことに加え、欧州向けやアジア向けも伸びが鈍化するなど、主要地域で揃って輸出の拡大ペースが減速した。ただし、前年とくらべて休日が多かったことが輸出金額の伸びを抑制した可能性もあるため、輸出が減速基調に入ったのかという点については、来月の結果も合わせて判断したい。一方、輸入金額をみると、価格が高騰した原油輸入などの拡大を背景に前年比+12.1%(前月同+13.2%)と高い伸びが続いた。内需の伸び悩みを背景に輸入数量は減少が続いているものの、原油価格高騰の影響がそれを上回り輸入金額が大きく増加したため、貿易黒字額は2ヶ月連続で前年を下回った。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

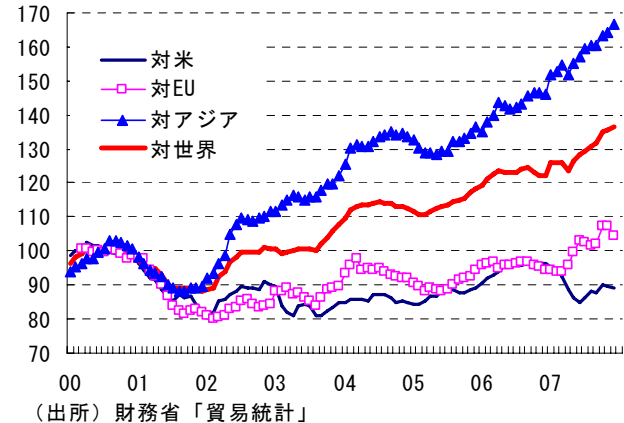
○10-12月期の輸出は2期連続でGDP押し上げ

数量ベースの輸出は前年比+8.4%（前月同+11.5%）と伸びは鈍化しているものの、高い伸びが続いた。10-12月平均でも、7-9月期対比+3.6%（当社で季節調整）と高い伸びになっており、世界経済の拡大を背景に10-12月の輸出は好調さを維持したといえる。

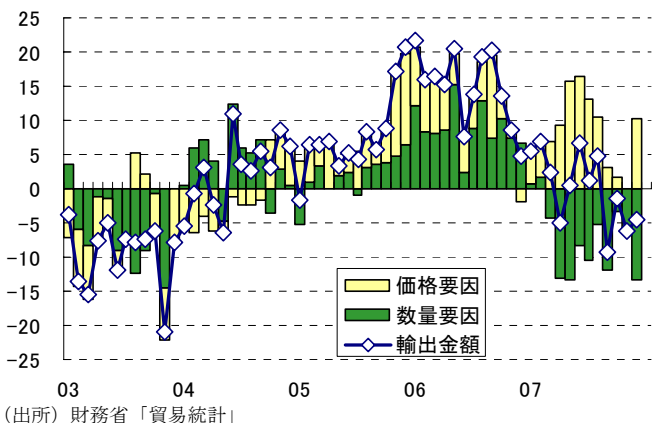
地域別（数量ベース）にみると、米国向け（前年比▲13.4%←前月同▲5.8%）は減少が続いた。EU向け（同+4.4%←前月同+6.1%）もこれまで高い伸びを牽引してきた建設機械や重電機などの伸び悩みを背景に輸出の伸びは鈍化している。アジア向け（前年比+11.8%←前月同+14.9%）については、やや伸びは鈍化したものの内需拡大を背景に自動車や通信機が好調さを維持しており、高い伸びが続いた。中東、ロシアなどその他地域向けについては自動車などを牽引役に好調な推移となっている。総じてみれば、米国向け輸出の低迷が続く中、輸出はEU向けの鈍化を背景に10、11月の高い伸びからは拡大ペースが鈍化しているものの、アジアや新興国向けの輸出が下支えとなり、増加基調を保っている。

こうした輸出の増加に加え、輸入の伸びが限定的であったこともあり、2月14日に発表される10-12月期の実質GDPでは、外需は明確なプラス寄与となる模様だ。10-12月期のGDPでも消費の伸び悩みや住宅投資や建設投資の減少など内需は停滞した一方、外需が下支えに寄与する形が続きそうだ。

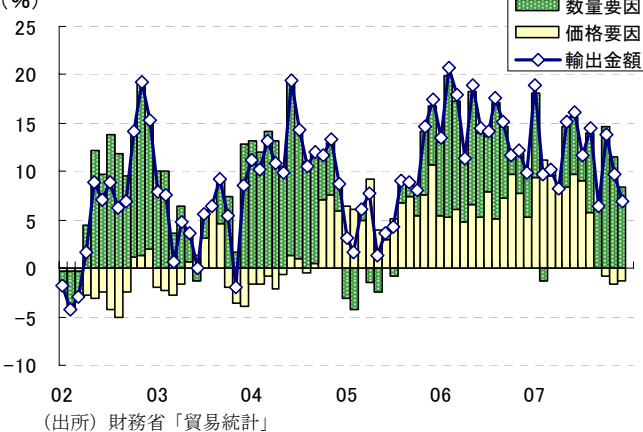
(00年=100) 地域別輸出数量指数の推移 (3ヵ月移動平均)



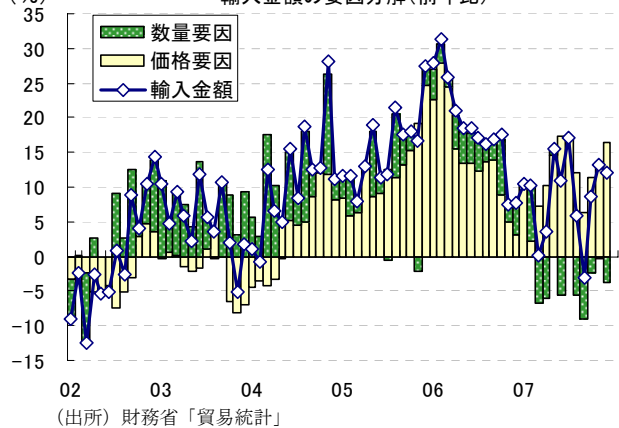
(%) 米国向け輸出金額の要因分解 (前年比)



(%) 輸出金額の要因分解 (前年比)



(%) 輸入金額の要因分解 (前年比)



○輸出の先行き不透明感はますます強まる

先行きについても、北京オリンピックに向けて内需拡大が続くと見られる中国、オイルマネーを背景に消費が好調な中東、ロシアなどの新興国向け輸出が下支えとなると考える。そのため、輸出は拡大ペースが鈍化するものの、増加基調を維持するだろう。

ただし、輸出の先行きには不安材料が多い。米国景気については、住宅部門の調整に加えて、雇用の伸び悩み、原油価格の高騰やマインドの低下などに伴う消費減速など、景気減速リスクは高まっている。欧州景気についても、企業部門だけでなく消費にも先行き不透明感が出ている。また、米国経済の減速懸念が強まる中、米国経済の景気減速が予想以上のものとなれば新興国経済への悪影響も避けられないだろう。さらに、先行指標の悪化が続いていることも輸出の先行きに対する懸念材料である。輸出は前述の通り増加基調が続くと予想するが、拡大ペースは減速するだろう。

